

健康と開発の調和を支援する

HANDS

Health and Development Service

2004年度事業報告書
2005年9月



5年目の転換期を迎えて

特定非営利活動法人（NPO）Health and Development Service（HANDS）の活動が始まって5年目を迎えることができました。皆様方の温かいご支援のおかげをもち、活動内容は飛躍的に拡大し、多くのスタッフが国内外での活動に従事しています。設立当初からのパートナーであるManagement Sciences for Health（MSH）との連携はもちろん、日本政府や国際協力機構、日本のNGO/NPO、国連機関など多彩な機関との協働作業を行ってきました。

2004年度は、HANDSにとって大きな転換の時期でした。アフガニスタンのプロジェクトが終了し、ブラジルのアマゾンでは地域の人びとが主体的にプロジェクト活動を実施するようになり、2005年4月から新たにケニアで国際協力機構と協働して実施するプロジェクトが始まりました。一緒に活動した仲間とのつながりを堅持しつつ、新たなパートナーとの出会いを大切に、地域の人びとと共にプロジェクト活動に気長に取り組んでいきたいと思えます。

国際保健医療協力に対するNPOへの期待の大きさを感じると同時に、組織の透明性や活動内容に対する説明責任など、市民社会におけるNPOとしての社会的責務の大きさも痛感しています。今後も、皆さま方からの忌憚ないご意見やご助言をいただきたく、ご指導ご鞭撻のほどよろしくお願い申し上げます。

HANDS代表 中村 安秀

フィールドプロジェクト

HANDSは、各国のNGO、政府および国際機関と協調して、環境や文化に配慮しつつそれぞれの国や地域の保健医療の仕組みづくりを支援しています。これまでアジア・アフリカ・中南米などにおいて、プロジェクト実施、コンサルティング、調査研究などの活動を行ってきました。

現在は、ケニア西部とブラジルのアマゾン地域で地域保健・医療向上プロジェクトを実施中です。

ケニア西部地域保健医療サービス向上プロジェクト始動

国際協力機構 提案型技術協力プロジェクト 2005年3月～2008年3月

HANDSはケニアの首都ナイロビから西へ300～350kmにあるリフトバレー州ケリチョー県およびニヤンザ州キシイ県において、2005年4月から「ヘルスセンターおよびコミュニティでの妊産婦ケアの改善」を目標としたプロジェクトを開始しました。

プロジェクトの背景

ケニアは妊産婦死亡率が出生10万件に対して1,000 (WHO, UNICEF, UNFPA) と報告されており、世界で最も高い国の一つです。妊産婦の死亡が多い背景には、(1) 妊産婦自身や伝統的産婆が危険な兆候を認識できず、医療機関を受診することの遅れ、(2) ヘルスセンターなど第一次保健医療施設における妊産婦ケア及び出産介助や患者搬送システムの不備、(3) 病院における産科医療がタイムリーかつ適切に提供されないこと、などがあります。HANDSがプロジェクトを実施しているケリチョー県、キシイ県では、50%以上の出産が、技術を持った介助者が立ち会わないまま行われており、病院やヘルスセンターなどの医療施設で分娩する割合も低いことから、熟練助産率や施設分娩率を向上させる必要性が高まっています。またこれらの地域では、コミュニティと第一次保健医療施設との密な連携の促進、ヘルスセンター等の第一次保健医療施設から県病院等の第二次保健医療施設への患者搬送システムの構築、および医薬品・機材の使用も含む管理機能の強化など、地域保健医療サービスの向上が課題となっています。



2県合同プロジェクト会議の様子



ケニア地図 (活動地域)

プロジェクトの目標と成果

これらの課題に対し、(1) 第一次保健医療施設であるヘルスセンターレベルのマネジメント機能の強化、及び(2) ヘルスセンターとコミュニティにおける妊産婦ケアサービスの向上と啓発活動、を通して対象地域の妊産婦ケアを改善し、最終的には妊産婦を中心とした地域の住民の健康状態を改善することを目的として、プロジェクトを開始しました。

プロジェクト前期(2005年～2006年)には特に、(1) ヘルスセンターの施設や機材の整備、(2) ヘルスセンターでの人材育成、(3) ヘルスセンターや県保健局のマネジメント機能の強化、(4) コミュニティでの活動、を実施する予定です。

プロジェクト活動

2005年4月にはプロジェクトマネジメント、助産/妊産婦ケア、地域保健/ヘルスマネジメント、プロジェクト調整を担当するHANDS日本人スタッフ4名を派遣し、8月からはコミュニティ活動推進専門家を派遣しています。また調達などロジスティクス補助のプロジェクトアシスタント、テクニカルアシスタント、秘書の計5名の現地スタッフを雇用しています。これから活動を充実させていくなかで、現地スタッフの数を増やしていく予定です。

2005年4月から7月末までは、主にプロジェクトの立ち上げ作業と調査活動を実施してきました。プロジェクト開始からほぼ毎月、ケリチョー県、キシイ県の県保健局（DHMT）やヘルスセンターの代表者を集めた2県合同プロジェクト会議を実施し、プロジェクトの進捗状況や今後の活動について話し合っています。第1回2県合同プロジェクト会議には、ケリチョー県、キシイ県から大勢の参加者が出席しプロジェクトの今後についての話し合いを行いました。

調査活動

プロジェクト活動は、医療サービスを提供しているヘルスセンターレベルでの活動と、住民参加に基づくコミュニティレベルでの活動に分けられ、それぞれのレベルにおける妊産婦ケアの現状を把握するために、二つの調査を実施しました。

一つ目は対象地域にある14ヶ所のヘルスセンターの現状を知るための保健施設基礎調査です。この調査では、各ヘルスセンターの基本的情報（地理的情報、人口等）に加え、(1) 妊産婦ケアに関する設備・機材、記録、人材、(2) ヘルスセンターの運営管理、についての情報を収集しました。調査にあたっては、HANDSテクニカルアシスタントが県保健局のカウンターパートとともに対象地域の全てのヘルスセンターを訪問し、情報を収集しました。

この調査を通じ、様々な記録や情報が適切に管理されていないことが明らかになりました。また、「分娩時に使用される機材の消毒が適切に行われていない」、「使用済みの注射器や針が適正に処理されず、一般廃棄物とともに処理されている」などの問題も明らかになりました。さらに多くのヘルスセンターで、「必要な薬が足りない」、「医師や看護師が足りない」といった問題も見受けられました。この調査の結果は、各ヘルスセンターにおける必要機材の検討、ヘルスセンターの人材育成の内容の検討、ヘルスセンターのマネジメント強化を目的とした研修内容の検討などに利用されます。

二つ目はコミュニティ調査です。この調査では、インタビューなどを通じて、地域の人々の妊娠出産に関する知識・態度・行動や、人々がヘルスセンターで受けた妊産婦ケアの内容とその満足度などを調べました。今後、この調査結果をもとに、コミュニティ活動推進専門家が中心となり、対象地域のコミュニティの人々や県保健局、ヘルスセンターの職員とともに、コミュニティにおける活動方針・活動計画を話し合っていきます。



ヘルスセンターで妊婦ケアの調査を行うHANDSスタッフ

今後に向けて

今後の活動としては、各調査の結果をもとに、県保健局やヘルスセンター職員等とともに、各活動の詳細な活動計画を立てていきます。それに続いて、ヘルスセンターに必要な機器・資機材の購入・供給、人材育成のためのカリキュラムや研修教材の作成といった活動が待っています。コミュニティでの活動も始まる予定です。

プロジェクトはまだ立ち上がったばかりです。現地では日本のようにスムーズに物事が進まないことや計画通りに行かないことが多々あります。しかし、ケニアと東京にいるHANDSスタッフ全員が、地域住民やヘルスセンター職員、県保健局、ケニア国保健省、JICAケニア事務所等と力を合わせ、妊産婦ケアの向上を目指してプロジェクトを実施して行きたいと考えています。



ヘルスセンターの待合室

ブラジル アマゾン地域保健向上プログラム

国際協力機構 草の根技術協力プロジェクト 2003年10月～2006年3月

Fish Family財団 / The William and Flora Hewlett財団 2004年7月～2005年12月

市長選挙のプログラムへの影響

マニコレ市では、2004年10月に市長選挙があり、選挙活動による混乱や、市長交代に伴うコミュニティ保健ワーカー（CHW）や保健局スタッフの解雇が続き、一時はプログラムを実施することが困難な状況にありました。HANDSが主な活動対象としているCHWについては、2004年3月に95名いたCHWのうち3分の1が解雇されましたが、新たに55名が採用され、現在120名のCHWが働いています。CHWプログラムコーディネーターの留任や新市長と新保健局長への積極的な働きかけによって、市保健局とHANDSとの協働は続いています。

コミュニティ保健ワーカーの要望に沿った活動を

2005年4月からのCHW研修では新規採用されたCHWに配慮してテーマを設定しています。4月には「CHWって何？」をテーマにイントロダクション研修を行いました。この研修の中で、CHWたちは担当地域の保健地図を作成しました。これらは、CHWと地域リーダー、保健センター職員とが、地区の保健状況について話し合う会議で活用されています。今後も、CHWの要望やニーズに配慮した研修テーマを心がけていくつもりです。

また、5月からはCHWが家庭訪問など担当地域での業務を適切に実施できるよう支援する目的で、CHWへの支援的スーパーバイズが始まりました。市街地では1名のスーパーバイザー（HANDS現地スタッフ）が毎日、CHWの家庭訪問や集団教育活動の評価・指導を行っています。また、川沿いに集落が点在する遠隔地では2名のスーパーバイザー（HANDS現地スタッフと市保健局スタッフ）が、月に一度、約2週間にわたり、船に泊まりながら、同様のCHW支援を行っています。



CHWたちの保健地図作りを手伝うHANDSスタッフ

こうして遠隔地に定期的に足を運ぶことで、CHWの担当面積に格差があることや、CHWのいない集落の存在などが明らかになりました。

住民と連携するコミュニティ保健ワーカー（CHW）を目指して

研修や支援的スーパーバイズによって、CHWは家庭訪問や健康教育において徐々に能力を向上させています。例えば、ある地区ではCHWが学校で「HIV/AIDSと性感染症」のテーマについて講演する機会も生まれ、この経験を今後の活動に活かしていくことが期待されています。

これら住民への教育に使用する教材も、アマゾンの状況を反映した、住民たちが親近感を持つものが望まれます。HANDSは健康教育教材として、マニコレの若者で作る劇団が演ずる「アルコールの害」「スーパー歯ブラシマンと怪人虫歯男」などのビデオを作成しました。これらのビデオは保健センターや病院の待合室で繰り返し上映されています。また、「産前検診の重要性」「STI/AIDS」「高血圧」「デング熱」などについての紙芝居も作成しています。これらはCHWがコミュニティでの保健啓発活動や、家庭訪問の際に使用してもらえます。

また、教会住民組織が主催する「子供の健康の日」に協力するCHWが増えています。HANDSは、CHWや住民が「子供の健康の日ボランティア」になるための研修に協力した結果、今まで実施できなかった地域でも開催されるようになりました。先に挙げた地域リーダーとCHWとの会議や地域の教会住民組織との協働事業を通して、CHWと地域との連携が深まりつつあります。



「子供の健康の日」に参加した子供たち、大人たち

今後に向けて

市長選挙はこれまで共に働いてきたCHWや保健局長が解雇されるという、プロジェクトにとって負の影響をもたらしました。一方で、活動が停滞したことによる危機感から、CHWやHANDSブラジルの現地スタッフが自発的にプログラム運営に参加するようになりました。今後は彼らの自発性を尊重しながら、マニコレ住民が自らの健康を実現できる仕組みづくりと人づくりを目指していきたいと思ひます。

アフガニスタン プロジェクト終了報告

国連人口基金2002年6月～12月/米国国際開発庁 2002年6月～2005年3月)

「アフガニスタンの保健医療システム再構築をめざして」

HANDSは新生アフガニスタンの保健医療セクター再構築のために、2002年6月から2005年3月まで活動を行いました。当初、20年以上におよぶ戦乱のため、医療施設や医療スタッフの現状を示す情報はありませんでした。このような情報がなければ、アフガニスタン政府による実効的な保健医療セクターの再構築計画策定も、外部からの援助の効果的な活用も望めません。そこでHANDSはアフガニスタン保健省と共に、パートナー団体である Management Sciences for Health(MSH)、国連人口基金などと協力して「全国保健医療施設調査」を実施し、アフガニスタンの保健医療施設に関する基礎データを収集しました。

さらに2003年からは、アフガニスタン保健省、MSHと共にREACHプログラム (The Rural Expansion of

Afghanistan's Community-based Health care) を実施し、さきの全国調査で得られた情報をデータベース化し、保健医療セクター復興計画の策定と実施の基盤として、保健省、援助機関、NGOなどへ情報提供を行ってきました。これと平行して保健医療情報が継続的に更新され、最新のデータがアフガニスタンの公衆衛生政策や活動計画に活用されることを目指して「保健医療情報システム (Health Management Information System)」の構築に対する技術支援を行いました。

また、現地・国際NGOや地方自治体が保健医療サービス拡大に必要な資金を提供する助成金プログラムを通して、より多くのアフガニスタンの人びとがサービスを利用できるよう支援しました。

HANDSは2005年3月をもってアフガニスタンにおける活動を終了しましたが、現在もMSHを中心としてREACHプログラムによる支援活動は継続しています。

専門的人材の育成

HANDSは、国際保健医療協力の質の向上をめざして、次世代を担う国内外の専門家の育成に力を注いでいます。

国際協力機構 国別特設研修 第3回「インドネシア母子保健」(2004年8月～9月)

HANDSは2002年よりJICAから委託を受け、インドネシアで母子健康手帳事業に携わる人材を対象とした集団研修を実施してきました。最終年度の2004年は、インドネシアの地方自治体や専門職団体から8名が参加し、講義・視察を通じて日本の保健行政、母子健康手帳の配布・利用システム、コミュニティを対象とした保健活動などを学びました。また日本・インドネシア双方の経験を共有するため、専門家を対象としたセミナーや日本に留学中のインドネシア人を招いたシンポジウムを実施しました。そして研修から得られた学びを帰国後に活かすためのアクション・プランを作成し、21日間にわたる研修を終えました。

今年度初の試みとして、青年海外協力隊としてインドネシアに赴任経験のある助産師や看護師に、研修サポーターとして協力して頂き、インドネシア語による専門用語の翻訳や補足説明をお願いしました。結果として個々人の英語力によらず、全ての研修員に内容を深く理解してもらうことができました。

HANDSは、3年間にわたる研修実施から得られた教訓を活かし、今後も国内外の専門的人材の育成に取り組んでいきます。



助産教育について説明を受ける研修員



研修の最後に帰国後のアクション・プランを作成する

講演・講義

年 月	タイトル	場 所
2004年9月15日	「途上国の医薬品管理」	国立国際医療センター 「第7回国際医療協力人材養成研修」 「第7回国際感染症専門家養成研修」
2004年12月11日～13日	4th International Symposium On Maternal and Child Health Handbook	タイ国マヒドン大学 ASEAN Institute for Health Development(AIHD)
2005年5月31日	ガイダンスII 「市民社会で生きる～市民社会とNPO」	神奈川県立金沢総合高等学校
2005年6月22、23日	「薬剤供給システム」	JICA 集団研修「地域保健指導者コース」 (委託実施者：聖マリア病院国際協力部)
2005年6月27日	「NPOの世界」	創価大学
2005年6月28日	「プロポーザル・ライティング」	JICA 集団研修「地域保健指導者コース」 (委託実施者：聖マリア病院国際協力部)

アドボカシー

HANDSは援助機関（関係省庁、JICA）による調査研究のコンサルタント事業および学会発表などの普及啓発活動を通して、HANDSが得た貴重な経験と知識を日本の国際保健分野の人々に還元しています。また、関係機関とのネットワークづくりを通じて、NGOの地位向上のために積極的に発言しています。

政策提言 / 調査プロジェクト

年 月	プロジェクト
2004年度	厚生労働省国際医療協力研究委託事業（国立国際医療センター） 「住民の主体的な行動変容をもたらす健康増進プログラムの開発に関する研究」 ：ブラジルにおいて地域住民の視点からの薬剤適正使用に関する調査を実施し、住民の行動変容を促す手法について提言を行った。 「保健医療協力プロジェクトの持続可能性に関する学際的研究」 ：インドネシアにおいて学際的調査手法に基づいたプロジェクト評価を実施し、その持続可能性を検証した。
2004年度	厚生労働省社会保障国際協力推進研究事業 「戦後日本の健康水準の改善経験を途上国保健医療システム強化に活用する方策に関する研究」 ：日本の保健医療システムが発展してきた軌跡を、先行研究のレビューや質的調査によって分析し、その経験を途上国で活かす方策について提言を行なった。
2004年 2月～2004年12月	JICAケニア事務所に「企画調査員（東西部アフリカHIV/AIDS対策）」を派遣
2004年 7月～2005年 4月	JICA「ザンビア保健施設センサス」：下段参照
2004年 9月～12月	JICA「リプロダクティブヘルス分野の効果的アプローチ～妊産婦ケア」：次頁参照
2004年 9月～12月	JICA「リプロダクティブヘルス分野の効果的アプローチ～思春期リプロダクティブヘルス」：次頁参照
2004年10月～2005年1月	厚生労働省エイズ対策研究事業 「先進諸国におけるエイズ発生動向、調査体制、対策の分析に関する研究」 ：日本における効果的な動向調査体制の確立と対策の立案を目的として、英国における女性・若者を対象としたHIV/AIDSの発生動向、調査体制、予防対策を整理・分析した。
2005年 1月～ 9月	JICA東南部アフリカ地域支援事務所に企画調査員（HIV/AIDS対策：広域）を派遣
2005年 4月～2006年4月	JICA「モザンビーク国保健人材育成機関能力強化プロジェクト」長期専門科（保健人材養成アドバイザー）を派遣
2005年 5月～7月	GII/IDIに関するNGO懇談会・NGO連絡会 「ODAによる経済・社会インフラ整備案件におけるHIV/AIDS対策に関する提言書」 ：道路建設や港湾整備といった大規模インフラ整備事業における、HIV/AIDS対策の必要性について、関心をもつ他のNGOと共に提言を行った。
2005年 5月～8月	ジャパン・プラットフォーム「スマトラ沖地震支援事業～NGOモニタリング」 ：スマトラ沖地震支援事業の中間評価団として、スリランカにおけるNGO事業の評価を行なった。

ザンビア 保健施設センサス

1990年代以降、多くの発展途上国では保健セクター改革が実施されており、保健行政の地方分権化の促進や基礎予防医療の充実などが図られています。また幾つかのアフリカ諸国においては改革の一環として、保健セクターの政策や投資/支出計画を一貫性をもって実施するアプローチがとられています。このような保健改革を実施する国々では、保健施設に関する信頼性の高い情報の必要性が高まっています。

このニーズに応えるためJICAはザンビアにおいて「全国保健施設センサス」（以下、センサス）の実施を支援し

ました。HANDSからはスタッフ1名を派遣し、データ収集体制の確立や、調査票の作成、またデータ収集者トレーニング、データ収集のモニタリングやデータの質の管理などの技術指導と調査全体の管理を行いました。

センサスでは全国の保健施設の位置や建物の状態、水・電気等の有無、基礎医療器材の状態、保健従事者の配置、基礎サービス供給の有無などの基礎データが揃いました。今後はザンビア政府がこれらの情報をもとに、医療サービス向上が必要とされる地域や重点課題等に優先順位をつけ、現実的な保健計画を策定することが期待されています。そのため、今後も日本からの技術協力を通じた組織的な能力向上のための支援が実施されていく予定です。

リプロダクティブヘルス分野の効果的アプローチに関する調査研究

「思春期リプロダクティブヘルス」、「妊産婦ケア」

昨年度に引き続き、HANDSはJICAの戦略ペーパー『リプロダクティブヘルス分野の効果的アプローチに関する調査研究「思春期リプロダクティブヘルス」「妊産婦ケア」』策定に参加し、報告書を作成しました。昨年度「開発課題に対する効果的アプローチ（リプロダクティブヘルス）」報告書を取りまとめた結果、これら2つのサブ課題を今後取り組むべき重要な課題であるとJICAが判断したためです。

この調査では「思春期リプロダクティブヘルス」「妊産婦ケア」について、既存の文献・資料・インターネット等を通じて得られる各種報告書や情報等を収集・レビューし、この分野のプロジェクト事例を分析しました。これらをもとに、この分野において実施されている多様なアプローチを整理・分析するとともに、各課題とミレニアム開発目標、人間の安全保障、実施機関の能力開発との関連や各アプローチの優位性・有効性を分析し、JICA事業での活用方法をまとめています。本調査研究では、この分野の有識者やJICA関係者からのヒアリングを実施するとともに、有益なアドバイスも多数いただきました。

これにより、HANDSはJICA、外務省による「リプロダクティブヘルス分野」の調査研究に継続的にかかわることができました。今後はこれらの経験を「リプロダクティブヘルス分野」でのプロジェクト実施に役立てていきたいと考えています。

学会発表

日時	タイトル	学会名
2004年10月	途上国の妊産婦の健康改善支援に対して日本の経験をどう活かせるか	第19回日本国際保健医療学会 (東京)
	アマゾン地域保健強化プロジェクト；第一報	
	地域保健ワーカーの役割と機能に関する基礎調査	
	アマゾン地域保健強化プロジェクト；第二報	
	参加型アクション・プラン策定の試み	
	自由集会「途上国における障害児ケアの現状と課題 ～フィリピンネグロス島における重症心身障害児の現状と支援活動」	
	ワークショップ「母子保健：日本の経験を国際協力で活かす」	

ネットワーキング

タイトル	頻度
GII/IDIに関するNGO-外務省定期懇談会・NGO連絡会	2ヶ月毎
自由民主党 政務調査会 国際的NGOに関する小委員会	不定期

広報/取材

年月	タイトル	掲載先/放送局
2004年9月	「ニュースやしろ～インドネシア母子保健研修」	テレネットやしろ
2004年9月	Front Line「大阪・インドネシア国別研修『母子保健コース』 ～インドネシアに母子保健手帳を導入～」	国際協力機構年報 2004
2005年7月	「仲村トオルの地球サポーター ～JICAケア西部地域保健医療サービス向上プロジェクト」	テレビ東京

助成を受けた財団一覧

HANDSの活動に対し、以下の機関及び団体から助成・支援をいただきました。

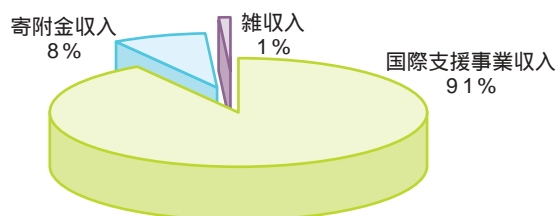
ここに深く感謝いたします。

- ・ 外務省
- ・ 厚生労働省
- ・ 独立行政法人 国際協力機構 (JICA)
- ・ 米国国際開発庁 (USAID)
- ・ Fish Family財団
- ・ The William and Flora Hewlett 財団
- ・ The David and Lucile Packard 財団

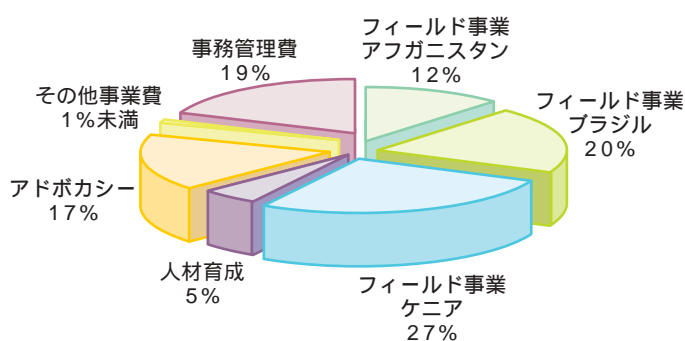
2004年度 会計報告

第V期会計報告 (2004年7月1日 ~ 2005年6月30日)

収入の部		千円未満切り捨て表示
国際支援事業収入	117,958	
寄附金収入	10,137	
雑収入	1,170	
総収入	129,265	(千円)



支出の部			千円未満切り捨て表示
フィールド事業	アフガニスタン	12,674	
フィールド事業	ブラジル	21,386	
フィールド事業	ケニア	30,431	
人材育成		5,100	
アドボカシー		18,485	
その他事業費		374	
事務管理費		20,289	
総支出		108,739	(千円)



特定非営利活動法人
 Health and Development Service(HANDS)
 〒113-0033
 東京都文京区本郷3-20-7 山の手ビル2F
 TEL 03-5805-8565
 FAX 03-5805-8667
 Email info@hands.or.jp
 URL http://www.hands.or.jp/